

はじめに

1 私たちと景観

景観ってなんだろう

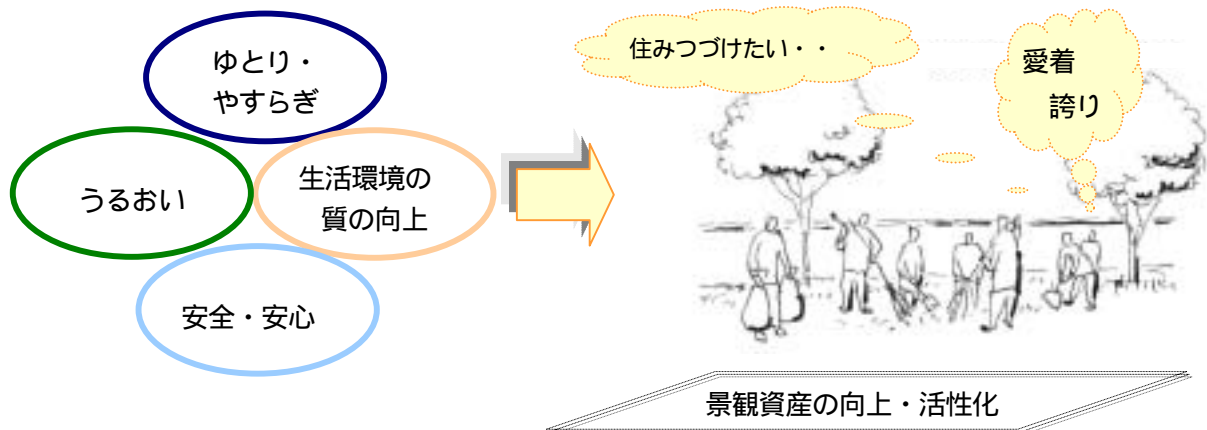
景観って難しい言葉のように聞こえ、なじみの薄いように感じられるかもしれませんが。景観とは、建物やまち並み、道路、木々の緑、人々の暮らしなど私たちが日ごろ目にしているまちの様子であり、「風景」と呼んでいるもののことです。

また、景観は目に見えるものだけでなく、音や光、香りなど感じるものも含み、まちの歴史や文化を反映するものであるので、私たちを取り巻く身近な景観を考えていくことは、まちのすべてを考えることに通じます。



景観づくりを進めると

景観づくりはまちのすべてに関わることから、良好な景観づくりとは、住み心地のよい快適でうるおいのあるまちづくりでもあります。景観づくりによって質の高いまちができると、まちに対する人々の愛着や誇りが育まれ、地域社会が活性化し、商店街では買い物客が増えるといった効果もあります。また、美しい景観は地域のかげがえのない共有財産であり、土地の経済的な価値を高めることにも貢献します。



景観づくりを進めるには

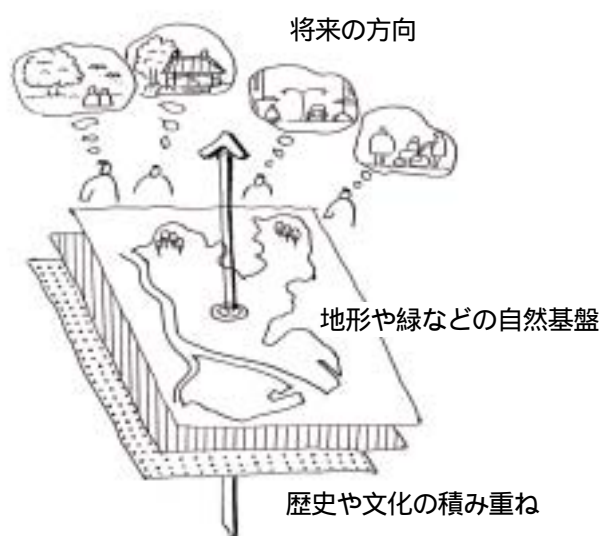
美しい景観づくりには長い時間や努力が必要ですが、私たちみんなが景観についての意識を高め、まち全体をよくしていく取り組みを持続的に進めることが大切です。

景観づくりは私たちの手で

景観づくりは私たち一人ひとりが主役です。私たちのささやかな気配りや暮らしのマナーで支えることによって、まちの景観は大きく向上することから、行政との協働のもと、それぞれの役割に応じて、できることから取り組むことが大切です。一つひとつはささやかでも、みんなの取り組みが集まることで「まちづくり」となって、魅力ある市川が築かれていきます。

私たちのまちを理解しよう

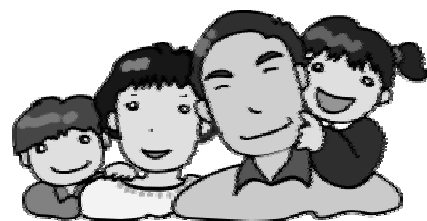
まちの景観は、自然の地形、あるいは緑や水辺を背景として人々が建物や道路をつくり、生活を積み重ねることによって育まれたものです。そのため、景観づくりでは、まちの歴史や文化、特性を理解することが大変重要となります。



子どもたちのために

私たちの創り出した美しい景観は、そこに生活するみんなの共有財産であり、子どもたちが成長し大きくなったときに、育ったまちを誇りに思い、また次の世代に引き継いでいく、そういう景観づくりを進めていくことが大切です。

次世代を担う子どもたちがいきいきと心豊かに育ち、動物や植物などあらゆる生き物にとっても棲みよい景観づくりを進めていくことは、私たちの務めです。



2

景観のとらえ方

距離によるとらえ方

景観は、見る位置や方向、距離などの違いによって、様々な見え方がするものです。それは、身近な生活の場であったり、少し離れて見るまちであったり、屋上や遠くから眺めるまち並みなどであったりと近景、中景、遠景の3つに区分されます。

これらは、まち全体として連続しており、景観づくりを進めるためには、その連続性や調和を保つようにすることが大切です。

◀1▶ 近景（身近な景観）

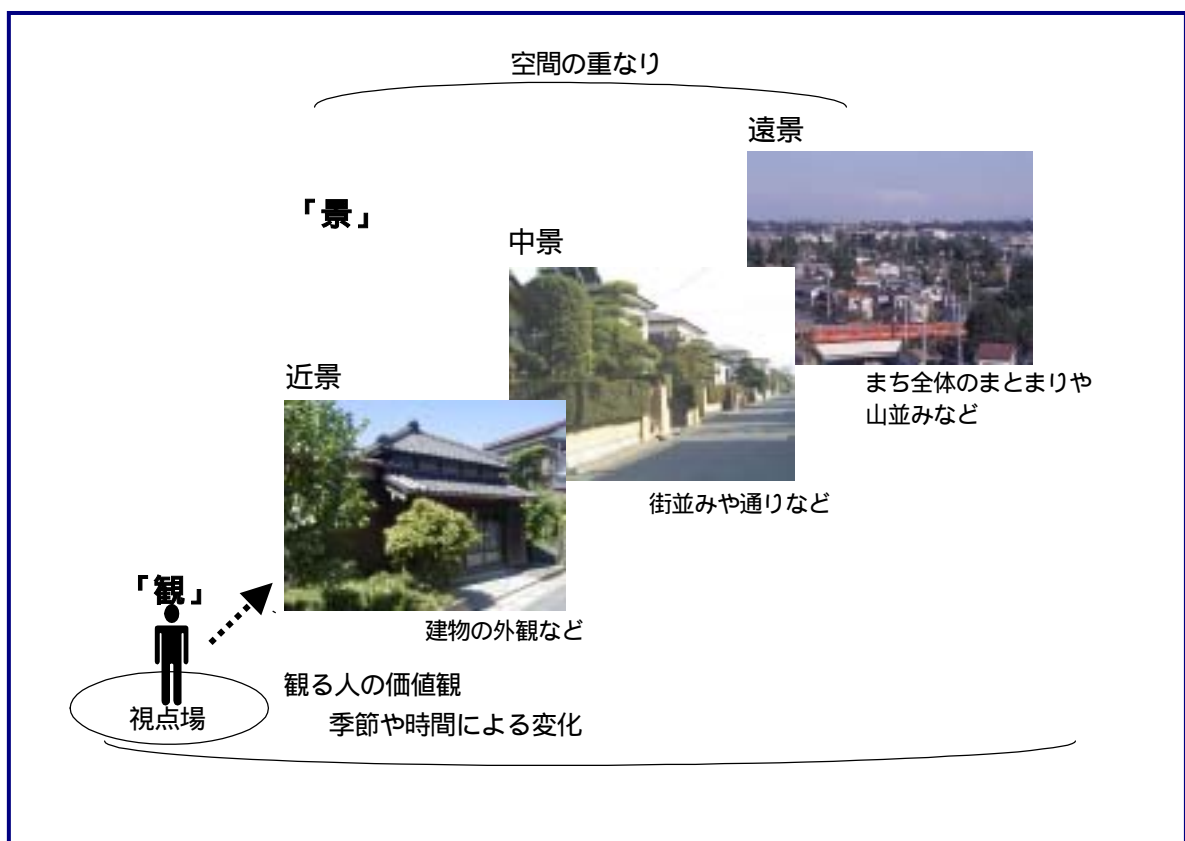
身近な生活の場での景観のことで、建物のデザインや樹木の様子、人々の活動の様子がはっきりとわかります。

◀2▶ 中景（地区の景観）

近景よりも遠くに見える、地区の広がりでもとらえた景観のことで、一つひとつの建物や樹木の様子ではなく、まとまったビル街や並木、林などの姿、歩きながら周囲に見える連続したまち並みなどの様子として見ることができます。

◀3▶ 遠景（眺望景観）

近景、中景の背景となる、遠くに眺める景観のことで、まち並みや山並みがつくるスカイラインとして見るすることができます。



要素によるとらえ方

景観は、自然やまち並み、人々の活動など、様々な要素によっていろいろな表情を見せてくれます。

◀1▶ 自然景観

海や河川、緑地などで構成された景観のことで、生産空間である農地も、景観の面からは自然景観としての要素を持ちます。

◀2▶ 歴史・文化の景観

遺跡や史跡、古くからの寺社や旧街道などの歴史資源、地域固有の文化資源、これらに付随する緑地・樹木などによる景観のことです。

◀3▶ まち並み景観

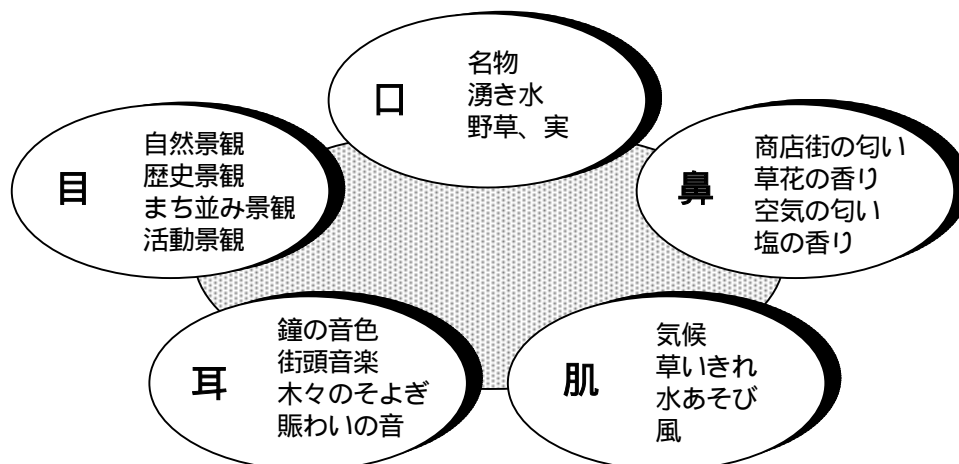
私たちが住む住宅地の様子や工場、商業施設、公園や道路、交通施設、公共施設などで構成された市街地の景観のことです。

◀4▶ 活動のある景観（生活風景）

買い物客で賑う駅前商業地の様子、街道を通る御輿^{みこし}が風情を添えるまつりの情景など、人々の様々な活動によって生み出される景観（生活風景）のことです。

五感によるとらえ方

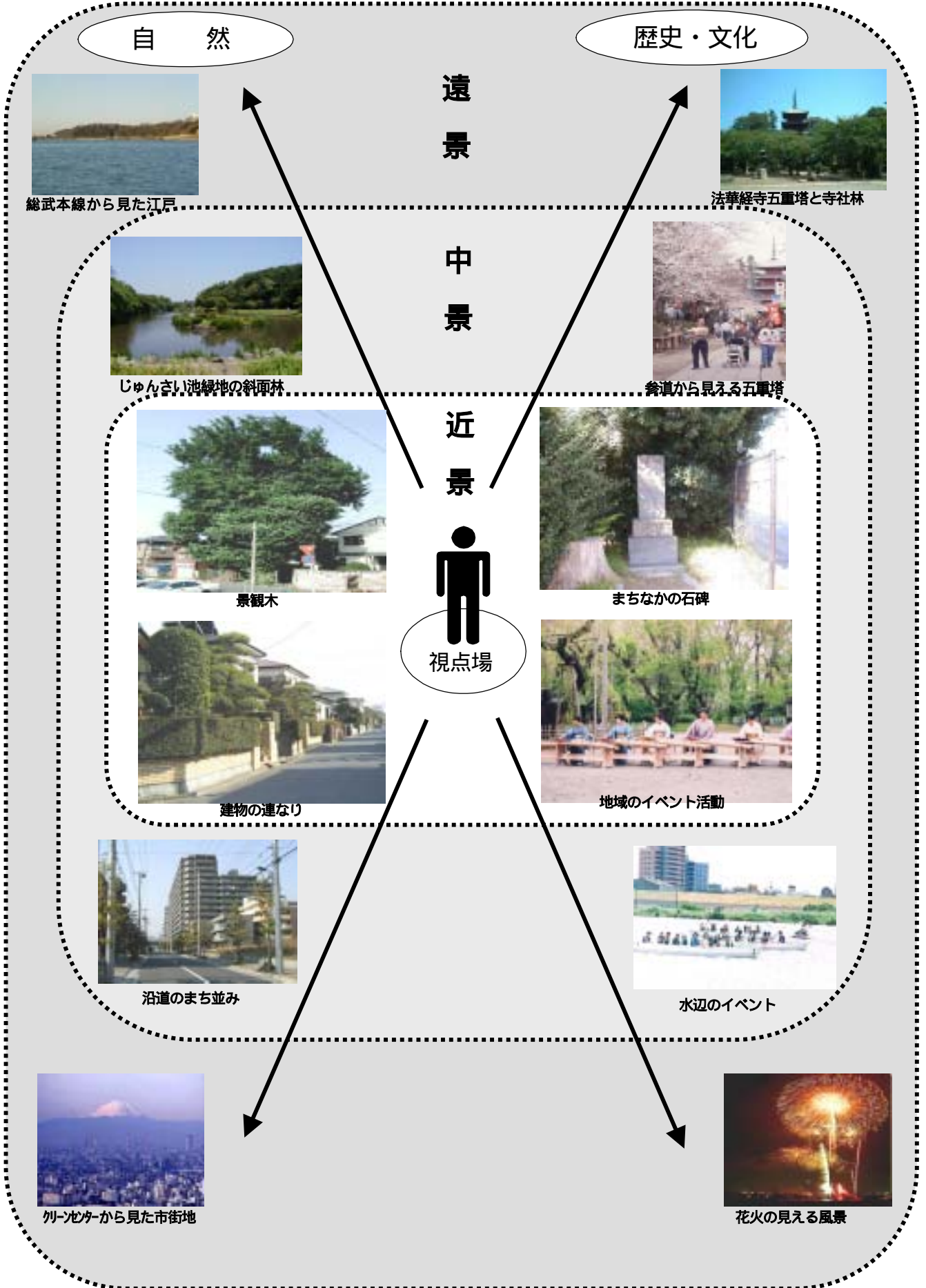
景観というと通常は目に見えるもの（景）が中心となります。しかし、現在の都市生活のなかで失われつつある、音やにおい、手触りや水の味など、人間の五感を通じて感じるものすべてを含めて、景観ととらえることができます。



景観の構成要素と具体的イメージ

	遠景	中景	近景
自然景観	<ul style="list-style-type: none"> ・総武本線から見る江戸川 ・市川地先から見る東京湾 ・斜面林のスカイライン ・大町に広がる農地の眺め 	<ul style="list-style-type: none"> ・真間川沿いの桜並木 ・護岸から見る三番瀬の風景 ・斜面林の残る集落のたたずまい ・道路に沿って広がる梨畑 	<ul style="list-style-type: none"> ・土手の緑 ・宅地内の樹木、生け垣 ・街路樹 ・景観木
歴史・文化の景観	<ul style="list-style-type: none"> ・駅から見る寺社林や門 (中山法華経寺、 葛飾八幡宮等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・寺社建築物と寺社林 (五重塔と寺社林等) ・参道から見る鳥居や門 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧家や歴史的建物、建造物、文化財 ・寺社境内の巨木や古木 ・祠や石碑、道標など ・細道と寺社の塀
まち並みの景観	<ul style="list-style-type: none"> ・高層建築物がランドマークとなるまち並み ・台地や屋上から見たまち並みの連続した広がり (背景の地形と一体に) ・海上から見る臨海部のまち並み 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅や電車から見るまち並み ・地区の特徴となるクロマツなどのある風景 ・車から見る沿道のまち並み ・湾岸道路沿いの工場群 ・賑う商店街 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物個々の姿や複数の建物の連なり ・デパートのショーウィンドウ ・路地の風景 ・まちかどの公園や樹木 ・塀や看板、玄関先
活動のある景観 (生活風景)	<ul style="list-style-type: none"> ・花火の見える風景 	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣の客で賑わう寺社と参道 ・農作物の収穫風景 ・商店街のクリスマスイルミネーション ・水辺のイベント風景 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(運動会、文化祭等) ・門松のある住宅 ・公園で遊ぶ人々の姿 ・道端で談笑する人々の様子 ・地域のイベント活動 (清掃、文化会等)

景観のとらえ方の例



3

景観基本計画の策定の趣旨

背景と目的

本市は、河川や海辺、緑など豊かな自然環境に恵まれた生活都市として、また、古くからの歴史に培われた落ち着きのある文化都市として発展してきました。

近年は、心の豊かさや精神的なゆとりが一層重視されるようになり、都市空間についても、潤いやゆとりのある魅力的な景観づくりが求められるようになっていきます。

これからは、まちの個性や特性を生かしながら、魅力的な景観づくりを進め、次の世代へと引き継いでいかななくてはなりません。

よりよい景観を模索し創りあげる活動＝「景観まちづくり」を進めるには、景観づくりにおけるビジョンを明確にし、様々な施策を景観の観点から総合的・体系的に展開していく必要があります。

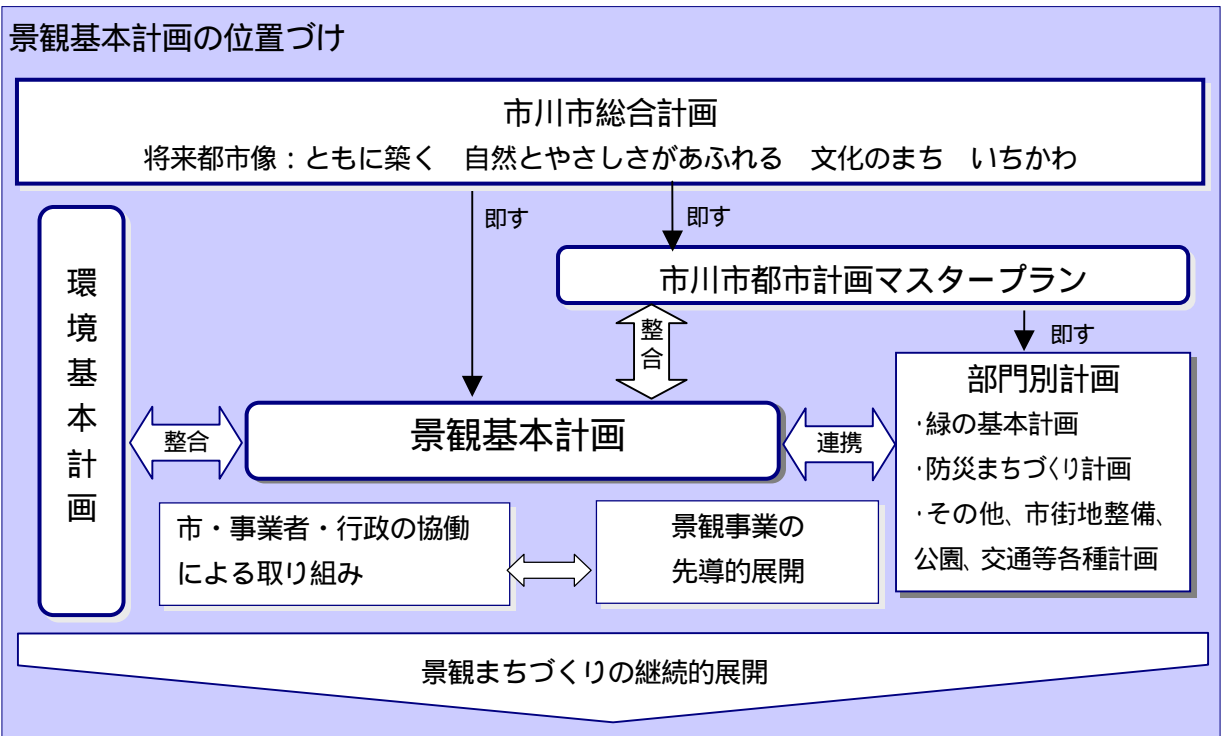
また、市民や事業者においても美しい景観づくりを意識し、日々の取り組みや活動のなかで、その実現に努めることが求められます。

この「景観基本計画」は、本市における景観まちづくりの考え方を明らかにするとともに、その実現に向けて市民・事業者と行政の協働による景観まちづくり活動の指針とすることを目的に策定するものです。

位置づけ

本計画は景観行政の総合的な指針となるものであり、「市川市総合計画」に即し、「市川市都市計画マスタープラン」、「市川市環境基本計画」との整合、部門別計画との連携を図りつつ、策定するものです。

なお、計画期間の終期はとくに定めず、社会経済情勢の変化などに適切に対応するため、必要に応じて見直しを図ります。



構成

景観基本計画は、景観まちづくりにおける「基本事項の整理」、市域全体を対象とする「全体計画」、市民の目線で身近な地域を対象とした「ゾーンや地域における計画」、これらを推進し、実現するための考え方などを示した「実現化方策」で構成しています。

【景観まちづくりの基本事項の整理】

第1章 市川の景観特性と課題	10
----------------------	----

景観まちづくりへ手がかりとなる基本要素の成り立ちや特性をまとめ、これらを踏まえて、これまでの問題と今後の課題などを明らかにします。

【全体計画】

第2章 景観まちづくりの基本理念と目標	36
---------------------------	----

景観まちづくりを進めるための基本理念と基本目標を定めます

第3章 景観まちづくりの基本方針	38
------------------------	----

骨格となる景観要素の位置づけと基本方針を定めます。

(要素別の景観まちづくり基本方針)
景観を構成する要素別に景観まちづくりの方針を定めます。

・ 自然景観	44
・ 歴史と文化の景観	54
・ まち並み景観	57

【ゾーンや地域における計画】

第4章 地域特性を生かした景観まちづくり.....	74
---------------------------	----

市内を8つのゾーンに分類し地域の景観まちづくりの進め方を定めます。また、景観まちづくり推進モデル地区を定め先導的な景観まちづくりの進め方を提案します。

1 自然と歴史の住宅地ゾーン	76
2 駅前商業地ゾーン	83
3 旧街道・歴史的街並みゾーン	90
4 寺社周辺と参道ゾーン	97
5 緑地・農地と住宅地ゾーン	104
6 河川沿いゾーン	111
7 既成市街地ゾーン	114
8 幹線道路沿道ゾーン	117

【実現化方策】

第5章 景観まちづくりを推進するために	120
---------------------------	-----

景観まちづくりの推進に向けた様々な具体的取り組みや方策を定めます

景観とは

一般的に「景観」という用語は風景や眺めを意味する言葉として使われていますが、専門的な見地からは次のような定義が定着しています。

景観とは、色々な種類の建物、木々や川などに加え、視覚以外でとらえた音や匂いなど、様々な要素からなる空間（「景」）を、私たちが目にし、感じる（「観る」）ことでとらえるまちや地域の表情を意味しています。

したがって、「景観」は人それぞれの感じ方によって異なるものとも言えますが、一方で、多くの人々が共感し、心地よいと感じる景観があります。

歴史を伝える風格のあるまち並みの景観、広告物や建築物のデザインに統一感のあるメインストリートの景観などは、多くの人々が美しい、心地よいと感じるのではないのでしょうか。

このように、美しい景観とは、地域の歴史や人々が共有する価値観や文化の表れであり、単に視覚的に美しいというだけでなく、精神的な満足感や快適性、安全性なども含めた総合的なものであると言えます。

